

# 天文教育

2018 3

*Japanese Society for Education and Popularization of Astronomy*



- <論文> 日本の大学における天文学シラバス調査
- <投稿> 成蹊中学高等学校天文台の 20 年／ペルーとの遠隔授業実践  
報告／リスクアセスメントのススメ
- <報告> 天文教育論文アーカイブ
- <その他> 2018 年度 一般社団法人 日本天文教育普及研究会  
代議員および会長候補者・監事候補者選挙公示

天文教育普及研究会

## 本誌原稿募集のお知らせ

編集部では下記の原稿を募集しております。会員の皆様からの活発なご投稿をお待ちしております。

1. **原著論文**：天文学教育・普及について、オリジナル性があり考察が優れ、学術論文として主な内容が印刷発表されていないもの。表題、アブストラクトには英文も付けてください。
2. **解説記事**：天文学や天文教育・普及に関する解説・紹介記事。分量は刷り上がりで6～10ページ程度。
3. **各種の報告など**：支部会やワーキンググループの活動報告、各種のイベントの報告、また天文教育・普及に関する授業の実践例など。分量は刷り上がりで2～4ページ程度。
4. **書評**：天文学や天文教育・普及に関する書籍の紹介。分量は刷り上がりで1ページ程度。
5. **会員の声**：会員の皆様からのご意見・ご感想など。分量は刷り上がりで1ページ程度。
6. **表紙の写真**：タイトルと400字以内の「表紙の言葉」とともにご投稿ください（写真のみでも構いません）。
7. **情報コーナー（各種会合・イベントの告知など）**：支部会やワーキンググループの会合、また天文学に関する各種の会合・イベントなどの情報。分量は任意ですが、スペースの関係で適宜省略させていただく場合があります。会合・イベントの開催日と会誌の発行日（奇数月下旬）にご留意ください。

・ **締め切り**は1は原則として奇数月末日、2～7は偶数月15日。投稿先は [post@tenkyo.net](mailto:post@tenkyo.net) です。

・ **広告掲載**を希望される方は事務局 ([jimu@tenkyo.net](mailto:jimu@tenkyo.net)) までお申込みください。掲載料はB5判1ページ ¥20,000・、半ページ ¥12,000・、1/4ページ ¥7,000・、チラシの折り込み ¥20,000・です。

※本誌に掲載された記事は、当会 Web サイト (<http://tenkyo.net/>) にて PDF ファイルの形で公開を予定しております。インターネットでの公開に差し障りのある場合は、ご投稿の際にその旨ご連絡をお願いいたします。

なお、2014年9月号から、当会会員に対しては会誌発行後に速やかに、パスワード制限をかけた形で閲覧できるようにし、発行から1年経過後にパスワード制限を解除して、広く一般に公開いたします。

### 【編集委員会からのお願い】

『天文教育』の編集は、すべて会員からなる編集委員によって行なわれています。ご投稿の際には以下の点についてご協力いただけますよう宜しくお願いいたします。

- ・ 原稿の投稿は、原則として Microsoft Word ファイルでお願いします。
- ・ 執筆用のテンプレートがホームページ (<http://tenkyo.net/>) からダウンロードできます。できるだけこのテンプレートをご利用くださるようお願いいたします（執筆上の留意点なども記しています）。
- ・ 十分に推敲を重ねた完全原稿でご提出ください。分量や内容によっては手直しいただく場合もあります。
- ・ 提出データは必ず各自でバックアップしておいてください。
- ・ Word 以外に一太郎ファイルやテキストファイルでも受け付けております。
- ・ 原稿のご投稿やご質問は電子メールにて、下記のアドレスへお願いいたします。

投稿先・質問先 メールアドレス：[post@tenkyo.net](mailto:post@tenkyo.net)

## 表紙の言葉

### 火星の敵？火星に似たもの？

2018年2月14日5時34分 撮影者：大西浩次  
写真の右上から左下に黄道がある。その左上の輝星が木星、そうしてアンタレスの傍に火星、左下に土星が輝いている。薄明の青い空の中で赤い火星が良く目立って見えている。

今年の夏は15年ぶりの火星の大接近だ。この火星が2月中旬にアンタレスと並んで見えていた。会員の中には、アンタレスの名前の由来がギリシア語の  $\text{Ἄντιαρης}$  から来ていることをご存知の方も多いただろう。でも、これを "Anti-Ares" 「火星と対抗するもの」という意味だと聞いているの

ではないだろうか。最近、ある SNS で Antares が "Ant-Ares"、すなわち「火星に似たもの」という意味だという事実で話題になった。火星が、黄道に近いアンタレスの近くを通過するので、火星と良く似ている ("ant" = "like") という意味で使われたはずが、どこかで「アンチ」と変わって日本に伝えられたらしい。ところで、この火星を意味する Ares アーレスは、ローマ神話における「戦と農耕の神」Mars マールスと同一視されている。古代ローマでは、3月が戦や農耕の時期の始まりという事で、このマールスが、3月の神とみなされた。英語の March の由来である。こんな話を思い出しながら、夜明けの火星を見てみるのも良いだろう。 (大西浩次)